

01

Saga Monodukuri ★飲食料品卸売業

実施年度：平成27年度補正

革新的サービス

高度生産性向上型

最新モデル

有限会社 マル八園芸

代表者 原 広宣

資本金 300万円

住 所 佐賀県杵島郡白石町大字新拓46-4

設立年月 平成14年11月

連絡先 TEL 0952-84-4845 FAX 0952-84-6050

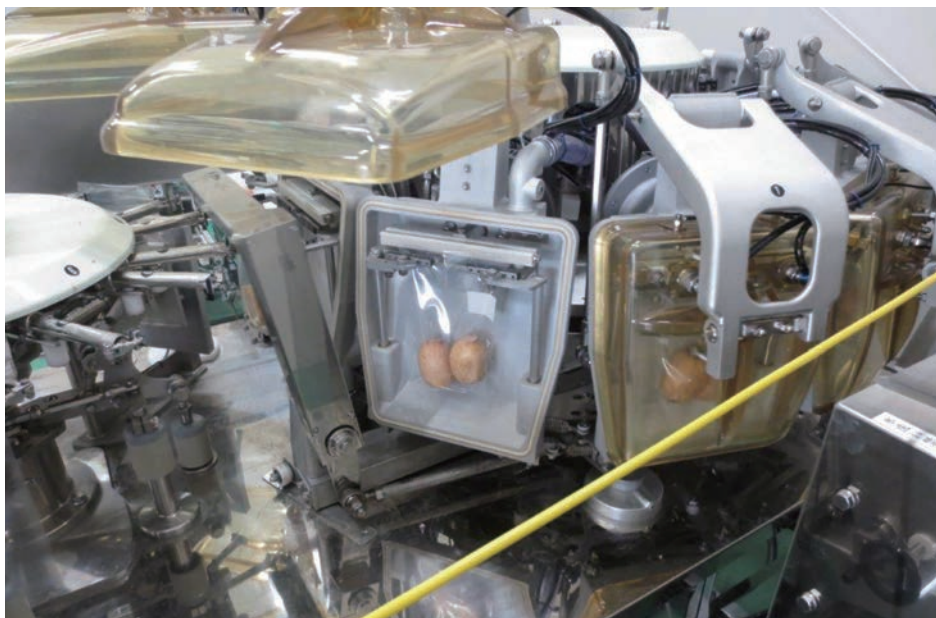
従業員 30人

URL <http://www.maruha-engei.com>

れんこん生産拡大を支える 個包装ライン機導入事業

当社では県内他社に先駆けて洗いれんこんの出荷を開始した実績があります。契約農家のれんこん作付面積拡大に伴い当社のれんこん受け入れ量が増加し、増加分に対応できる生産ラインへの更新が必要となっていました。そこで当社は新設備を導入して、洗いれんこん真空パックの生産ラインをオートメーション化し、より多くのれんこんを加工できる体制を整えました。併せて、社内の作業効率化と衛生管理の強化を実現しました。今後も農家が安心して生産できる環境を作ると共に、消費者に安全・安心な農産物および農産物加工品を提供してまいります。

代表取締役
はらひろのり
原 広宣



Q1 御社について教えてください。

A 佐賀県産の農産物の卸販売と農産物加工品の製造販売を行い、全国にお届けしております。

本事業への取り組みの経緯

れんこん農家の大半は小規模農家で、作付作業・収穫作業・選別箱詰作業・出荷作業を家族で行っています。れんこんの収穫最盛期は12月～2月頃で、氷の張った畑に早朝から入るなど収穫作業は厳しく、出荷繁忙期は休日返上・家族総出で深夜まで作業します。農家の負担が大きい出荷作業を当社の洗いれんこん事業と連携させ、生産農家がれんこん栽培に専念できる体制を構築する事業を始めることにしました。当社の洗いれんこん生産ラインは洗浄から包装まで手作業で効率が悪く、さらに当社の専属契約れんこん生産者の加入が増えたことでれんこん受け入れ量も増える見込みだったことから、生産性を向上させるための設備導入を決定しました。



実施内容（取り組みの詳細）

生産ラインのシミュレーションを行った上で機械を順次発注しました。洗浄・カットが完了した原料をミートワゴン反転機でセミオートデータウェイ（卓上計量機）に投入して重さを計測した後、縦型袋詰真空包装機にて袋詰めと真空パック化を行います。さらに金属検出器を通して刃こぼれ等の異物混入を検査すると共に、最終重量の確認と出来高データの管理を行います。その上で小型回転テーブルにて製品を滞留させ、品質を最終確認するという流れになりました。金属検出器の導入によって食品製造における安全性を確保し、オートメーション化によって人を介した細菌感染を最小限に抑えることを目指しました。



取り組み成果・波及効果

一連の作業をオートメーション化することでこれまで1時間あたり生産量1,000パックだったところ1,500パックまで向上させることができました。年間600トンの処理が可能となり、れんこん受け入れ体制を整えることができました。また、オートメーション化によって人の手に接することがなくなり、菌の付着軽減も実現しました。さらに、発注数量を厳守することや安全面の配慮について納品先からの信頼も増しました。社内においては、社員の残業時間削減を達成し、労働環境の改善を実現できました。



Q2 御社が大事にしていることは？

A 生産者が安心して働ける環境を作りつつ、消費者に安全・安心な農産物および農産物加工品を供給することです。

Q3 御社の社是は？

A 作物を育て、人を育て、地域を育む、地元密着企業。

Q4 機械を導入してよかった点は？

A れんこん受け入れ体制の強化と作業効率化・衛生管理の強化を同時に実現できたこと。



今後の展望・活動予定

農家を支援し、農家と共に歩んできた当社は農家の生産意欲向上のために有効な事業をこれからも実践していきます。実践のために不可欠なのが新規取引先の開拓です。本事業で生産した商品については、首都圏の生協や量販店、れんこんを食べる習慣がなかった北海道地域への販路拡大を進めています。れんこん農家が収穫物の受け入れ先の心配をすることなく作付面積を増やすことができる環境を作ることで、農家の経営は安定し、後継者育成にもつながります。農家の負担軽減と所得向上に今後も貢献していくと共に、佐賀県産れんこんの知名度アップとブランド力強化に努め、生産量増につなげていきたいです。